

2017 春山 4 題—わが初登頂記

報告者 Aka

古希を過ぎ登り残した山が気にかかり、少しずつつぶしていく事とし、今春は4つ消化する事が出来たのでまずまずの出足だったかと満足している。私にとって初めて登る山というわけで老躯に鞭打つてのわが初登頂や如何。

■4月13日(木) 西上州・荒船山(1423m) ■

昭和31年のマナスル初登頂に続き、ベストセラーとなった井上靖の「氷壁」が映画化されて、それも呼び水となり30年代に入るとすぐに戦後最初の登山ブームが訪れ、週末の新宿駅や上野駅は若者で溢れ夜行列車は超満員だった。人気があったのは新宿発では大菩薩嶺や三ッ峠、上野発では谷川岳や尾瀬であり、神津牧場・荒船山も夜行日帰りコースとしてなかなかの人気であった。マイカーなど夢の又夢であった当時、交通手段は国鉄しかなく夜行列車の到着に合わせてバスの便も用意され、若者はみな競い合って山に向かったのだった。

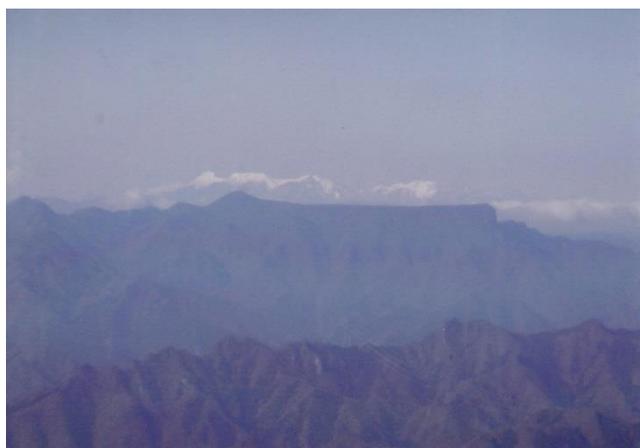
荒船山の航空母艦のような平な山頂は高崎線や関越自動車道の車窓からすぐに指摘する事が出来て分かりやすい。この山を初めて世に紹介したのは大島亮吉で、昭和5年発表の遺著「山—随想—」に収められた「荒船と神津牧場付近」を読み、その異国風な牧歌風景や叙情的文章に魅され戦前から人気があった山だと深田久弥は言っている(わが山々・中公文庫)。

そんな背景も知り、独特な山の恰好にも興味を抱きながら何故に今まで足を向けなかったのか自分でもよく分からないのだが、漸く重い腰をあげることにした。頂上への道は幾通りかあるが、昔からの内山峠コースを辿る。

上信越道下仁田ICで下り、佐久市へと向かう国道254号線を内山トンネルの先で左折、20台位の駐車スペースの有る内山峠に出る。昭和35年発行の「東京周辺の山々」(朋文堂)に拠れば、当時は峠手前のガーデンハウスまで下仁田からバスが出ていたらしいが随分前に廃止されたようだ。木陰には2日前の雪が残り、登山道は霜が固く凍っていて手製の南天の杖はポンと弾かれてしまう。1時間程で鈇岩という修験者道場跡に出た。見上げる岩壁はつららが下がり寒々とし、穿かれたような下部の岩屋で修験者達は修行に励んだものとみえる。

鈇岩の先で左に折れて進むと傾斜は増し、短い岩場も出てきてハシゴやロープが架けられているが、一部ガチガチに氷っていた箇所もあって緊張した。ハイキングコースとなっているが、冬期その気になって軽い気持で入山するのは危険だと思った。

下山後いろいろ調べてみると冬期は内山トンネルの先さらに1^{km}程行った内山大橋の手前を左折した荒船不動からのコースを取るらしい。



人気漫画「クレヨンしんちゃん」の作者が滑落した鱸岩（ともいわ）は垂直にすっぱり切れ込んだ高さ 200 ㍎の岩壁でなかなかの壮観、挑戦するクライマーもいるに違いない。「この先絶壁・危険」の立て看板が立っていた。鱸岩展望台の先には避難小屋としても使われているトイレ付き休憩舎があったが素通りして先へと進む。

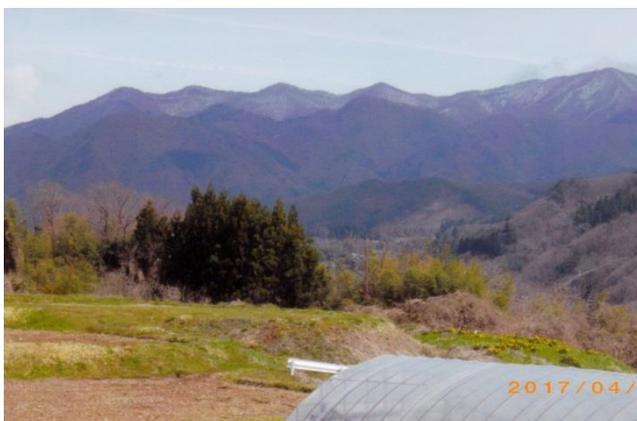
荒船山を遠望する度にあの平な台地はどうなっているのだろうと思っていたが、そこは笹原とナラやブナなどの雑木林だった。苗場山や田代山のような池塘の散在する高層湿原もいいが、これはこれでなかなかの風情がある。大人が抱えきれないような大木は見当たらず、高さもせいぜい 10 ㍎程度、すっかり葉を落とした雑木林は開放感もありノンビリと単独行を楽しんだ。この雰囲気だけでもう十分に目的は達したようなものだが、とりあえずピークハントとし、登山口から 2 時間半で最高峰の京塚山の頂きに立ち先ずは満足。天気は良いのだが冷たい風に吹かれ早々に下山とした。

アクセスに難点あるものの見所は多く、駆け下りてしまうのはもったいなく、機会があれば近くに泊ってノンビリ歩いてみたいと思った。

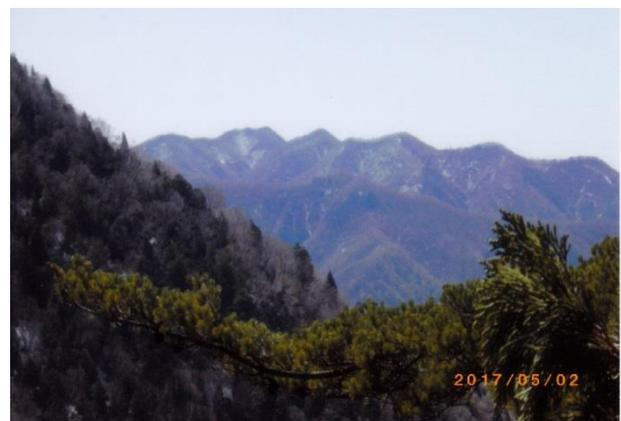
(記録) 8:35 内山峠 8:50~9:45 鉢岩~10:10 一杯水~10:30 鱸岩~11:20 京塚山 11:45~12:25 鱸岩~12:55 鉢岩
~13:35 内山峠

■4月19日(水) 高檜山(たかびやま)(1315m) ■

この春最大の目玉、ずっと懸案だったのがこの山。都岳連会員 100 人に聞いてこんな山を知ってる人が何人いる事か。紹介するガイドブックの類はないし雑誌に取り上げられる事もないヤブ山で、登るとしたら残雪期しかないらしい。上越新幹線・上毛高原駅から国道 291 を水上方面にいくと右手前方に 5 つのピークを連ねる長い頂稜が目に入るが、右手の上州武尊連峰や左手の谷川連峰に目がいつてしまい、殆ど注目される事もない不遇の山、有史以来いったい何人の人が頂上を踏んだのだろう。100 人といないのではと思うと K 2 並の難峰、いつか行かねばと思っていたという次第。



(上毛高原駅付近から望む高檜山連峰、右端ピークが頂上)



(左とは反対側の白毛門山腹から望む高檜山連峰)

まずは小手調べと3月18日に水上駅裏のかの沢沿いの林道から尾根末端に取り付くべく歩き出したが、ワカンも潜るズボズボの雪、間もなくして雪崩ブロックで林道はふさがれておりギブアップ。これで引き下がったのでは男が廃るとばかりに、反対側の小日向側から攻めてみる事にして車道を歩くこと20数分、当てずっぽうに小日向集落のどん詰まりの民家の裏手から尾根を目指してみた。すぐに杉林の中に「伐木・注意/この送電線は154000ボルトです」との看板が出てきて、これは東電の送電線巡視路らしいことが分かり、俄然張り切る。が、大きな倒木を跨いで越したのはいいが、深雪にワカンは沈み足は取られ、見通しもきかず、やっぱり無理、ルートが目処がついたのをヨシとしてこの日は潔く断念したのだった。

リベンジは1ヶ月後の4月19日。今回は車で直接小日向集落へ。最後の民家の手前道路際に駐車し、前回辿ったルートに行く。深雪の下だった急な上り坂は舗装されていたが、並の車では上がれない急な斜度、すぐに杉林の山道となり、まさしく送電線の巡視路で杭も打ってある。雪の消えた杉林の中をジグザグと登って行くと最初の送電線鉄塔下に出た。刈り払われて開けた先を見上げれば、尾根上にも鉄塔が立っているのでひとまずはそこを目指す。明瞭な巡視路に導かれて稜線に出ると少し視界が開け北からまともに吹き付ける寒風に曝された。谷川連峰は雪雲の中だ。

巡視路はここまでで、いよいよかと思ったが、ヤブのなかにはかすかな踏み跡がありホッとす。これは何とかかなりそうと、尾根を外さないように慎重に上へ上へと目指す。何の標識か分からないが、時折標杭が埋められているので、ルートは間違っていないようだ。992m地点で南からの支尾根が合流し、稜線は東へと延び残雪が出てくる。雪庇がつき上越の山らしくなり、右手には目指す高檜山の頂上も見えてきた。まだまだ遠く「行けるかなあ？」と弱気の虫がまたぞろ頭をもたげたが「これはラストチャンス。頑張れ！」と己を奮い立たせ、雪庇の踏み抜きに気をつけながらブナ林の中を先へと進んだ。先行者の踏み跡もなく、勘だけが頼りだが天気の良いさに助けられ1173m、1211m、1270mとアップダウンを繰り返しながら小ピークを越える。

1270mピークから先は南に進路を取り広い雪原を暫し下ると、奥利根スノーパーク方面・向山からの尾根との分岐に至り、さらに300m程で頂上だった。山頂手前は黒檜の幼木に遮られ、左手から大きく巻いたが、高檜山という山名は頂上にこの黒檜がある所からきているのだろう。南には赤城山方面がよく見えたが、谷川岳方面は立木が邪魔をして展望



(高檜山頂上 標識無し 後方は赤城山)

はきかず、不遇の山である事を改めて確認した。わざわざ苦勞して登るだけの価値がないということだ。

下りは自分のトレースがあるからそれを辿ればいいさと気楽なものだったが、わずかな時間差なのに融けてしまったのか、時々踏み跡を見失ってしまい、支尾根に迷い込みそうになり、五感を研ぎ澄まし慎重に下った。

かくして長年の宿願を何とか果たす事が出来て多いに満足。これも送電線の巡視路のお陰であり、原発問題では思う所もあるが、とりあえずは東電さんに深く感謝し、もう2度と来る事はないだろう山を後にし帰路についた。

(記録) 小日向集落登山口 8:30~8:55 最初の送電線鉄塔~9:35 尾根 (3番目の鉄塔) ~10:45 ピーク 1173m
~11:25 ピーク 1211m~12:40 高檜山 12:50~15:40 下山

■4月20日(木) 迦葉山(かしょうざん) 1322m■

巨大な天狗面で知られた弥勒寺の裏に聳え古くから地元では霊峰として崇められてきた迦葉山が一躍有名になったのは1972年の連合赤軍のあさま山荘事件の時だった。彼等の山岳ベースのあった榛名山と迦葉山アジトでリンチ殺人事件があり、そこに12名が埋められていることが分かり騒然となったあの事件、なんともやりきれないおぞましい事件だった。

のっけから暗い話題になってしまったが、迦葉山弥勒寺の宗派は曹洞宗、高尾山薬王院、京都鞍馬山と並び日本三大天狗として地元の住民に愛されているというので、参拝がてらに会山行に使えないものかと4月20日下見にでかけた。

弥勒寺の裏に登山口があり、取り付きから残雪の上を歩く。お隣の上州武尊山にはまだ多量の雪が残っているのだから、それは当然。先行者がいるらしく踏み跡がハッキリし昨日のヤブ山・高檜山とは大違い、気楽に歩ける。1時間20分で頂上に達した。途中岩潜りや鎖場などもあって面白いルートであったが、問題はアプローチ。JR沼田駅からバスが出ているが、バス停がチョッと遠いのが難点か。



(左=迦葉山頂上 右=迦葉山弥勒寺の大天狗)

(記録) 弥勒寺 10:40~11:10 和尚台~12:00 迦葉山頂上 12:10~13:00 弥勒寺

■5月1日(月) 西上州・稲含山(いなふくみやま) 1370m■

山名から察する通り地元では古代から農耕の神として信仰されており、毎年5月3日には大祭が行われ地元の人々がこぞって登頂するという。下仁田、富岡近辺の小・中学校の校歌にはどこでも稲含山の名が出てくる位に地元では親しまれているようで、西上州入門の山というところ。

上信電鉄利用の場合は下仁田駅から歩くか、登山口までタクシーとなるが、今回はマイカーだ。手持ちの案内書では茂垣集落の先まで車で入れるとあるが、なんてことはない、今は林道はさらに鳥居峠まで延びていて、歩く時間はグンと短縮されたようだ。峠には「案内書や地図に<鳥居峠>と記されているのは間違いで、正式には<茂垣峠>です。訂正して下さい」というお触れ書きが貼ってあった。登山道はよく整備され歩き易く、1時間弱で山頂に達した。まずまずの天気ではあったが、春霞かかって荒

船山もぼんやりとしか見えず、イマイチだ。「これじゃあトレーニングにもならないなあ」とチョッと物足りない気分で下山した。

(記録) 茂垣峠 9:25～10:20 稲倉山 10:35～11:05 茂垣峠



(林道から仰ぐ稲倉山)



(稲倉山のスギ・カラマツ人工林と鹿食害防止パイプ)